

## 4. 活用・整備のイメージ案 – Stage 4

### 目的

- 具体的な建物の様子を再現することにより、往時の宮殿の様子を最もわかりやすい形で表示する
- 発掘調査でまだわかっていない（発掘調査だけではわからない）遺構等について、検証する場とする

### 概要

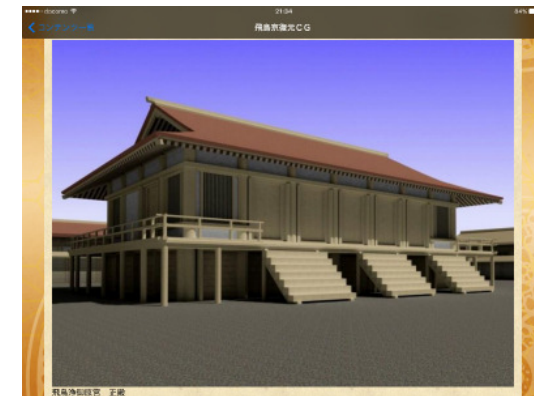
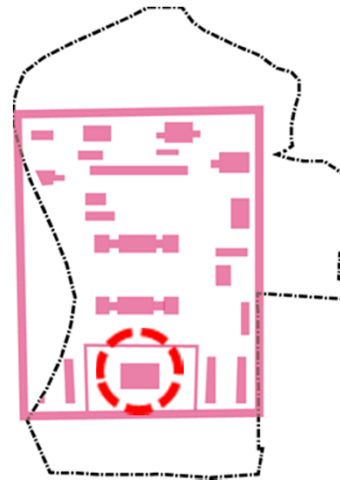
- 宮跡の中心となる施設として、内郭南区画に大型建築物を仮設できる仕組みを構築する

### 具体的手法

- 組立式の部材を、必要に応じて組み立て・分解して保管する

### 特徴・効果等

- 宮跡の中心施設として、往時の建物の規模・形状などを具体的に示すことで、飛鳥時代の宮跡に対する来訪者の理解を助ける
- 建物前庭について、（宮中行事の再現等）イベント空間としての活用を検討する



◆大型建築物のイメージ：飛鳥京復元CG



◆宮中行事のイメージ：奈良県HP

## 4. 活用・整備のイメージ案 – Stage 5

### 目的

- ボランティアを中心とする多様な参加者の協働作業によって、宮跡の活用・整備を目指す
- 協働作業を通じて、飛鳥時代の宮や往時の生活・技術をより深く体感・体験していただくきっかけとする
- 協働作業を通じて、参加者や支援者の交流を深めるとともに、伝統技術の継承、経済の活性化に資する

### 概要

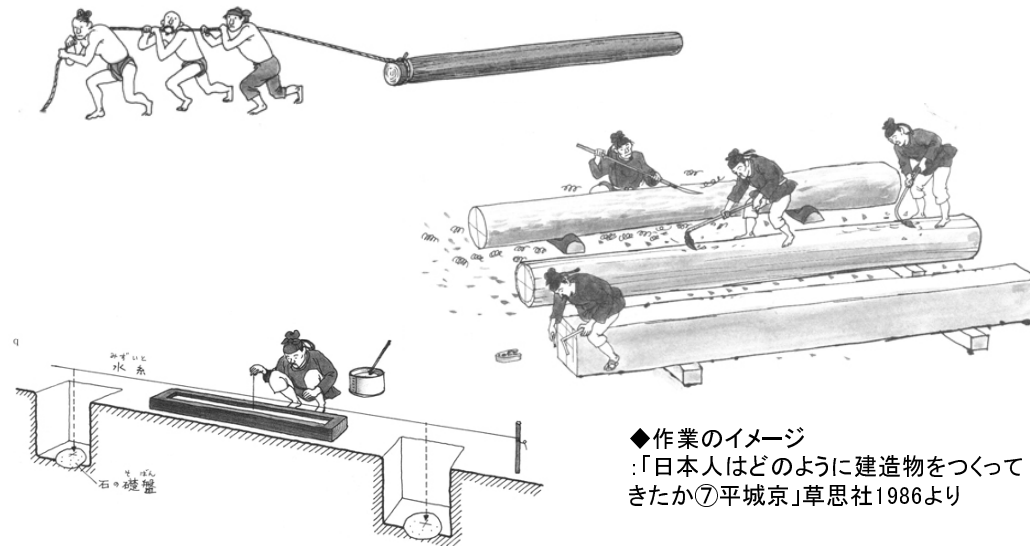
- 飛鳥宮跡におけるシンボル事業として、ボランティア（来訪者および住民）を主体とするプロジェクトチームによって往時の建物を再現する

### 具体的手法

- ボランティアを育成する「人づくり」から実際の「ものづくり」までを一貫して行うことを目指し、座学から実践まで（建物一棟につき）数年間をかけたプロジェクトとする
- 木材（間伐材等）の伐り出し、運搬、製材といった段階から古代の技術を学び、実践することで、生きた体験の機会とする

### 特徴・効果等

- 地域の農林・土木などの「産」や考古学・建築史などの「学」の支援を要請し、多様な関係者による協働作業として運営する
- 定期的・継続的にボランティアを募り、参加者を増やすことで体験を通じた知識や技術を継承する
- クラウドファンディングやふるさと納税などによる資金確保など、多くの人に関われる機会を提供する
- 建築の過程をイベントとして公開するなど、活動の成果を、目に見えるものとして共有する



◆作業のイメージ  
:「日本人はどのように建造物をつくってきたか⑦平城京」草思社1986より



◆作業のイメージ:町衆による鉾の組立(京都・祇園祭)